



再開発中のフェリー・ビルディング



現在のフェリー・ビルディング前

千平方フィートのマーケットプレイス、2階・3階には、175,000平方フィートのオフィス・スペースが整備され、マーケットプレイスでは、近郊の農産物や特産品・食品を取り揃えて販売するスペースも確保されました。港は、フェリー・ビルディングを66年間の長期賃貸借契約で開発業者に賃貸し、開発業者は基本賃料および歩合賃料を毎年、港に支払っています。

ところで、サンフランシスコ港のピア（桟橋）ですが、フェリー・ビルディングを起点として、西側に奇数、東側に偶数のピアが並んでいます。集客目的の開発が進んでいるのは、奇数のピアであり客船の寄航や観光地として、すでに多くの集客実績があります。偶数のピアでは港湾物流機能や船舶修理、環境に配慮した再開発などが進行しています。

サンフランシスコ港が、今後の大型再開発拠点と位置づけているエリアは、かつて港湾物流機能が集積していたエリアであり、土壌対策を講じたうえで環境に配慮し、市民の理解・支持を得られるようにいかに工夫して開発を進めるべきか、民間資本の活用策や市民スペースの確保など、さらなる創意工夫が求められています。

4 おわりに

港の開発と環境・市民生活の共存というテーマは、決して、狭隘で人口が密集した日本の港湾だけの課題ではなく、サンフ

ランシスコ港、ル・アーブル港、メルボルン港、上海港においても共通の課題でした。サンフランシスコ港、ル・アーブル港、メルボルン港では、現在進めている港湾エリアの開発が、議会・市民からの厳しい監視と議論に晒されており、ひとつひとつ説明責任を果たしつつ事業を進めているのが現状でした。

これらの背景には、より港に近いエリアに居住人口が入りこんできている、という現状があります。サンフランシスコ港は、再開発事業を行う際には、必ず、当該事業がもたらす市民へのメリットを明確に示す必要がありますし、ル・アーブル港は、有名なセヌ川河口に位置する港ということで地元のみならず全国レベルで港湾開発エリアの周辺環境に対する配慮・取組み姿勢を訴え続けなければなりませんし、メルボルン港においても、莫大な費用を要する航路浚渫事業に対しては土壌汚染対策問題もあり地元（市・州）政府の厳しい監視の目が光り議論されています。

港湾施設と快適な居住・アメニティ空間との共存、ベイエリア機能の市民理解の浸透という、大阪港が直面している課題が、今回会議に出席しているそれぞれの港にとっても、今まさに大きな課題であることは、ある意味、非常に心強く感じました。この姉妹港会議の場において、地理的にも取巻く社会経済環境においても全く異なる背景を有する港間において、このように共通課

題に対して情報交換を行い、それぞれが解決策のヒントを得ることができたことは、非常に有意義な国際港間交流の成果であり、何よりも大きな財産だと思いました。次回開催は、2年後のメルボルン港ですが、それぞれの参加港が、今回発表のあったメルボルン港が現在抱えている課題をふまえて視察することにより、さらに活発な情報・意見交換が行われ、それぞれの港の発展に結びつけていくことが可能であると感じました。

今回の出張に際しては、事前の準備からサンフランシスコ滞在中を通して、サンフランシスコ港にたいへんお世話になりました。特に、26日には、会議終了翌日で、多忙を極めておられたにもかかわらず、半日にわたってモイヤー港湾局長と非常に有意義な意見交換を行うことができ、また、午後に予定していたオークランドのコンテナターミナル視察までのアテンドの便宜も図っていただきました。サンフランシスコ港のスタッフのみなさん方にたいへんお世話になったことを心から感謝申しあげる次第です。

また、今回の出張に際し、海外からの視察団来港やヨットレースの運営など業務が輻輳するなかで、直前までサンフランシスコ港との調整にあたり準備を進めてくれた振興担当スタッフのみなさん、プレゼン資料作成に協力いただいた局内関係担当のみなさんにもこの場をお借りしてお礼申し上げます。